

通し番号	4863
------	------

分類番号	29-24-12-02
------	-------------

ダイコン‘湘白’はトンネル栽培で2月上旬まで収穫できます

[要約] ダイコン‘湘白’の作期拡大のため、作期別栽培試験、収穫期別品質評価試験を行ったところ、有孔P0フィルムを使用したトンネル栽培により、10月上中旬まき1月中旬～2月上旬どりが可能であることが明らかとなった。

神奈川県農業技術センター生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

白首総太りのダイコン品種‘湘白’は、(株)横浜植木育成の種子親と本県育成の花粉親からなるF₁品種である。秋まき冬どりを標準作型としているが、現場から年明け以降の作期拡大も求められている。そこで‘湘白’の作期拡大の可能性について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 10月上中旬まきではトンネル栽培により1月中旬～2月上旬に収穫が可能である(表1、図1)。
- 2 10月下旬まき3月中旬収穫では、抽苔率が100%となった(表1)。
- 3 ‘湘白’の収穫物品質は全遊離糖、ビタミンC、破断強度共に収穫時期による差は見られない(表2)。
- 4 以上の結果から、‘湘白’は従来の9月中下旬まき露地栽培に加えて、10月上中旬まきトンネル栽培により1月中旬～2月上旬どりが可能である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本試験では、11月7日から収穫期までトンネル被覆資材に有孔P0フィルムを使用した(平成28年度:ユーラックカンキ4号、平成29年度:ユーラックカンキ2号)。
- 2 トンネル栽培で‘湘白’は葉が大きく育つため、トンネル内の農薬散布が行いづらいため、特にアブラムシ類の発生に注意する。
- 3 1月中旬～2月上旬どりは、抽根部の表面が青くなる場合がある。
- 4 有孔P0フィルムによるトンネル栽培では脱春化せず、3月に抽苔のおそれがあるので注意する。

[具体的データ]

表1 ‘湘白’のトンネル栽培における作期別収穫物調査

調査年度	播種日	収穫日	全重 (g)	根重 (g)	葉長 (cm)	根長 (cm)	首色 ^z	最大根径 (cm)	抽苔率 (%)
平成28年度	9月27日	12月21日	2,192	1,605	57.1	38.5	1.9	8.2	0.0
	10月3日	1月12日	1,866	1,385	62.8	34.6	1.2	7.9	0.0
	10月17日	1月30日	1,760	1,303	60.3	35.6	1.9	7.8	0.0
平成29年度	10月12日	2月6日	1,542	1,226	48.2	37.3	1.8	6.3	0.0
	10月25日	3月13日	2,039	1,395	57.5	36.7	1.7	6.9	100.0

z：4段階評価（3濃・2中・1薄・0白）の平均値、対照の青首ダイコンを3.0とした

表2 ‘湘白’の収穫期別品質調査（平成29年度）

播種日	収穫日	全遊離糖 (%)	ビタミンC (mg/100g)	破断強度 (kPa)
9月15日	12月22日	2.88±0.14	8.85±0.59	1,541±152
10月12日	2月6日	2.70±0.28	9.31±2.10	1,594±246
10月25日	3月13日	2.92±0.16	10.23±1.40	1,481±176

数値は平均値±標準偏差



図1 10月3日まき
‘湘白’の外観
(平成29年1月12日収穫)

[資料名] 平成28、29年度生産技術部試験研究成績書

[研究課題名] 野菜類の高品質・安定生産技術の開発、
県オリジナル品種等の品質・品質保持特性、加工適正評価

[研究期間] 平成28～29年度

[研究者担当名] 草野一敬・高田敦之・吉田誠・曾我綾香

[協力・分担関係]